

公募助成「腎不全病態研究助成」研究サマリー

研究名	維持血液透析患者の予後規定因子としての低栄養と高リン血症
所属機関	徳島大学大学院医歯薬学研究部 疾患治療栄養学分野
氏名	濱田 康弘
<p>【背景および目的】透析患者の栄養障害は予後不良因子である。慢性腎臓病患者の栄養障害は単なる低栄養とは質的に異なることがわかっており、この低栄養状態が「Protein-Energy Wasting (PEW)」と定義された。PEWの改善のための食事療法では、タンパク質などの積極的な摂取が必要である。一方で、タンパク質摂取量とリン摂取量は正相関があることが知られているため、タンパク質摂取量が増加することは、透析患者において予後不良因子である高リン血症につながる。透析患者における高リン血症の治療の一つに食事指導によるリンの摂取制限がある。しかしながら、栄養状態の維持・改善のためのタンパク質摂取促進と高リン血症の是正のためのタンパク質摂取制限は相反する治療である。そこで、血液透析患者のPEWと高リン血症が生命予後に及ぼす影響について検討した。</p> <p>【方法】2012年5月～2012年11月の6か月間、伊賀市立上野総合市民病院において安定して維持血液透析を行うことのできた外来患者59名を対象として、2012年11月に対象者のPEWの有無と高リン血症の有無を調査し、その後5年間の生存率について調査した。</p> <p>【結果】対象者59名うち9名(15%)がPEWと診断され、平均リン値$>6.0\text{mg/dL}$(高リン血症)であった患者は17名(29%)、平均リン値$<3.5\text{mg/dL}$(低リン血症)であった患者はいなかった。5年生存率はPEW群22%・非PEW群68%、高リン血症群56%・非高リン血症群62%であった。5年生存率はPEWの有無では統計学的有意差が示された($p=0.003$)が、高リン血症の有無では有意差はみられなかった。</p> <p>【考察および結論】本研究より、維持血液透析患者において、PEWの有無は高リン血症の有無よりも生命予後に影響を与える可能性があることが示唆された。タンパク質摂取制限における血清リン値の正常化は二次性副甲状腺機能亢進症や血管石灰化の予防ができるが、タンパク質摂取制限をすることは栄養障害に陥る危険がある。これはタンパク質摂取制限の本当の目的とは異なる。実際、本研究結果ではPEWのある患者で早期死亡がみられた。そのため、PEWのある患者は血清リン値の管理よりも栄養状態の改善を優先させるべきであると考えられる。</p>	